



# はちもり

八峰町立八森小学校

目指す子ども像

- ①よさを伸ばし合う子ども
- ②つながりを大切にする子ども
- ③自らとふるさとを拓く子ども



校訓：海のように 波のように 岩のように

令和6年3月8日(金) 第41号 文責：安部 晃幸

## 春雪の解くるがごとく卒業す 前田普羅

朝、1年生から道端で摘んできたフキノトウをもらいました。すでにつぼみは開いており、今年の春は訪れが早いことを物語っています。

新たな命が芽吹く季節の到来です。でも、新たなステージへの移り変わりは、それまでの事象の終わりも意味します。

うれしさと悲しさが混在するこの時期ですが、新たなステージに一步を踏み出す卒業生の皆さんにエールを送りたいと思います。



## 卒業まであと9日 ～卒業式練習始まる～



卒業式まであと1週間あまり。今週から卒業式の全体練習が始まっています。

全体の整列位置の確認から始まり、座る姿勢や座礼の仕方、呼びかけや歌練習などを行いました。3月5日の第1回目の全体練習では、とてもよい歌声が響いて気持ちがよかったです。送る側も送られる側も、感謝の気持ちをしっかりとした形で表そうと、真剣に練習に臨んでいました。

朝の会や帰りの会でも各学年で卒業式の歌を歌うなど、卒業のムードが高まってきています。

3月16日の卒業式に向けて、さらにムードを高めていきます。



職員室前廊

下には、先日の「6年生ありがとう集会」で6年生に贈られた「似顔絵」と「メッセージ」が掲示されています。校内環境も卒業式に向けて、整備中です。



## 教育専門監

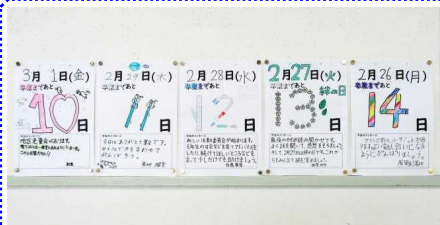


## 藤谷先生、1年間ありがとうございました!

今年度、5・6年の算数の授業でお世話になった教育専門監の藤谷順子先生の今年度最後の授業が、3月7日(木)にありました。

子どもの言葉を軸に自然に授業が進み、学びが深まっていく藤谷先生の授業スタイルは、児童の学力向上だけでなく、本校教員の授業力向上にも繋がっています。

藤谷先生から教えていただいたことを糧に、「分かる・楽しい授業づくり」に、より一層励んでいきたいと思っています。1年間、ありがとうございました。



## 今週の一枚

すし本す向どうだらト壁  
。くを最後。けに心けそれでダ面6  
優示後。たつ構ののウに、年  
ししま形いえなの日いま、生  
いででてや、く、カレンの  
6く下書か全動行事。生  
年れ級か全校の事等。生  
生、にて児童の事等。生  
た、にて児童の事等。生  
ち頼お。い童義向紹。廊  
でも手まになか介。ガウ下  
の



## 授業の様子から



### 【1年】体育

体の柔らかさを高めるための体づくり運動をしています。楽しそうに様々な運動に励んでいます。みんなの体の柔らかさにびっくりです。

### 【2年】国語

二つの漢字を組み合わせた言葉の問題を各自で作成し、互いに解き合っています。自分たちで作った問題だけに、取り組む意欲満々です。



### 【3年】算数

「ぼうグラフと表」のまとめです。表を見て、ぼうグラフに表しています。グラフのマスが何人を表しているかを考え、書いています。

### 【4年】体育

『王様だるまさんがころんだ』をしています。オニの指示通りの動きでオニに近づきます。左上写真は「だるまさんがゴリラ!」。



### 【5年】算数

展開図の書き方について、いくつかのモデルの中から正しいものを選び、そう考える理由をみんなに分かるように説明しています。

### 【6年】算数

クイズやパズルを題材とした問題に取り組んでいます。あれこれ考えを巡らせながら、数の面白さに浸っています。

もできないことを痛感しました。非日常への対応は、日常がどうだったのかが問われます。

起るはずのないものが起こったとき、私たちは何

うでしょうか。

他者とのつながりを大切にしながら過ごしてみても

はどうかでしょうか。今が幸せであることを自覚して、

てくるこの日を、自分の生活を振り返る日にしてみ

悲しく思い出したくない3・11ですが、毎年やっ

非日常が今もなお続いている人たちがいることを私

は忘れてはいけません。

不自由のない生活。一方で、それが当たり前ではない

自由のない生活。今私たちの目の前に在る、当たり前

の生活が、あつという間にあの日の出来事、そして

元に戻ると、あつという間にあの日の出来事、そして

毎日の生活がいかに幸せであるかを忘れてしまいま

学校で友達と学んだり笑って話したりできること、

スポーツでチームメイトと共に汗を流せること、家族

一緒に御飯が食べられること、帰ることのできる家があ

ること……。今私たちの目の前に在る、当たり前

の生活が、あつという間にあの日の出来事、そして

元に戻ると、あつという間にあの日の出来事、そして

毎日の生活がいかに幸せであるかを忘れてしまいま

学校で友達と学んだり笑って話したりできること、

スポーツでチームメイトと共に汗を流せること、家族

一緒に御飯が食べられること、帰ることのできる家があ

ること……。今私たちの目の前に在る、当たり前

つぎ

## 非日常への対応

今年の3月11日、午後2時46分

をみなさんはどのような思いで迎

えることでしょうか。小学生の皆

さんはまだ生まれていませんでし

たが、13年前のあの日、東日本大

震災が起こりました。こちらは大

きな被害はなかったものの、長時

間に及ぶ停電や食料・燃料の不足と

いった状況下で、

普段の生活がいかに便利であった

かを実感しました。

死者1万5900人、行方不明者は未

だ2523人

(R5・3・10時点)で、今も大震

災による心の傷が

癒えていない人はたくさんいま

す。

また、今年の1月には、能登半島

地震が発生し、東

日本大震災以来の津波警報が出

されました。多くの家

屋が倒壊し、たくさんの方々が

被害を受けました。13年前の

出来事を思い起こした人も少な

くなくないはず

です。

嫌な

人は悲しいことは思い出したく

ないものです。

嫌な

ことからは目をそらしがちです。

また、自分の生活が

元に戻ると、あつという間にあの

